

論文審査結果の要旨

平成 29 年 2 月 11 日

氏 名：木藤まどか

論文題目：技術としての英語の専門教育と国際感覚－女子英學塾・津田英學塾・津田塾専門学校・津田塾大学の卒業生の証言から－

木藤まどか（人文科学研究科 比較文化専攻）学位請求論文『技術』としての英語の専門教育と国際感覚－女子英學塾・津田英學塾・津田塾専門学校・津田塾大学の卒業生の証言から－は、1900年に設立された女子英學塾が現在の津田塾大学へと発展する中で、創立者津田梅子の教育理念がどのようにして継承されてきたのかという問いを立て、私塾および大学設立に関わる諸資料や歴史的文献と共に、卒業生による証言を分析することを通じて、その継承の過程を詳細に示した労作である。

本論文は2部構成である。第Ⅰ部「<空間>としての『津田塾』を構成したもの：学生への『種』」（第1章～第4章）では、津田梅子が示した「all-round women」の理念を柱にした私塾設立準備から津田塾大学に至るまでの教育の歩みを、カリキュラム等を綿密に分析することを通じて跡付けており、創立者の教育理念と女性の自立促進の繋がりを明らかにしている。第Ⅱ部『津田塾』における<国際感覚>生成の道程：分析対象者の証言から」（第5章～第8章）では、1969年3月まで「津田塾」に在籍していた34名を対象者としてライフヒストリーの聞き取りを行い、教育を通じた「個の自覚」と「人間形成」に焦点を当てて分析している。被調査者から得られた証言をもとに、「津田塾」での英語教育が、個の意識を覚醒させ、多様性への寛容さと社会貢献の意識を生み、「自律」した個人の形成に繋がったことを明らかにすると共に、「国際感覚を身に着けた女性」という新たなジェンダー観を周囲に提示し得たことの意義と後世への影響を論じた。なお、調査時に90歳以上であった卒業生の証言は、日本の近代女子教育の成果を示す資料として、極めて貴重な価値を持つはずである。

口述試験は、平成29年2月11日(土)午前10時より学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス3号棟で実施した。その口述試験では、調査法の妥当性や、調査結果の取り扱いなどについて説明がなされた。また近代における「官製」ではない「私塾」における教育の政治的文化的重要性についての問いに対し、「津田塾」では時代背景に応じて大学の教育理念を柔軟に対応させてきたことが述べられた。本論文は、近現代における女子教育の意義を改めて示したと共に、大学における教育理念の継承を跡付ける貴重な研究であるとして高く評価された。

主査 人文科学研究科 和智 綏子
副査 人文科学研究科 水田 宗子
副査 人文科学研究科 原 ひろ子
副査 人文科学研究科 北田 幸恵
副査 人文科学研究科 魚住 明代